

教育長 様

校番 52 大門 高等学校長
(全日制 課程)

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和4年度 実施報告書**

1 学校の教育目標等

(1) 教育目標

県東部で唯一、理数コースを持つ普通科高等学校として、生徒一人一人に探究力をベースとした主体性、協働性を身に付けさせ、社会の持続的な発展に関わり、豊かな人生を切りひらくための学びに向かう力と高い志を持って社会に貢献できる人材を育成する。

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

- ・ 育てたい生徒像
 - 【熱意】を持って主体的に行動し、自己実現を図ろうとする生徒（主体性）
 - 【創意】を持って探究を深め、新たな価値の創造を図ろうとする生徒（探究力）
 - 【誠意】を持って他者と協働し、社会に貢献しようとする生徒（協働性）
- ・ 学校として育成を目指す資質・能力は、主体性、探究力、協働性

(3) 学科等の特色

上級学校へ進学し、社会に貢献する研究をするために、高等学校においては各教科・科目の知識及び技能を習得し、自分の興味・関心に基づき社会的課題をどのように解決すべきか「総合的な探究の時間」、及び「理数探究基礎」において探究活動をしている。

2 研究の概要

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

- ・ 「総合的な探究の時間」を核として、教科横断的に社会的課題を解決しようと探究を深めさせる。
- ・ 理数コースの探究活動を、普通科普通の探究活動に普及させる。

(2) 2年後の目指す学校の姿

探究力をベースとした主体性、協働性を身に付け、高い志を持って社会に貢献できる人材を育成している。

(3) 令和4年度の目標

ア アウトプット（活動指標）

- ・ 「総合的な探究の時間」と各教科・科目との関連を示すカリキュラム・マップが作成されている。
- ・ 各教科・科目でモデレーションによる評価の適正化が図られている。

イ アウトカム（成果目標）

- ・ 見通しをもって学習し、振り返りの自己評価での肯定的評価の生徒の割合が 75 %以上になっている。
- ・ 基礎的読解力のツールをもとに取り組み、自己評価が肯定的評価の生徒の割合が 70 %以上になっている。

(4) 令和4年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラムの核とする教科・科目等名

「総合的な探究の時間」

イ カリキュラム開発の概要

- ・ 育成を目指す資質・能力のマスタールーブリックのレベルの刻みを揃えるため、教科主任会議を通じて全教員の意見を反映させながらレベル3・4の見直しを行った。また、「総合的な探究の時間」と各教科との関わりを見通せる2年生・3年生のカリキュラム・マップを作製した。
- ・ 学校の教育目標や育成を目指す資質・能力の育成に向けて、「総合的な探究の時間」を核として、生徒が各教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるようにするためのカリキュラムの開発を行った。
具体的には、福山市市民局東部支所と連携し、グループテーマに沿って外部探究活動を行うことを通して、生徒に課題（探究ゴール）を明確にさせたり、広島大学の研究室を訪問し専門的な見地からの示唆を受けたりして、視野を広げることによって探究を深めさせた。
- ・ カリキュラム開発に係って、核とするカリキュラムを充実させるに当たって、11月に公開授業研究会を国語科、地理歴史科、数学科、理科、外国語科及び「総合的な探究の時間」で実施し、核とするカリキュラムと結びつきの強い国語科の研究授業において、内容の解釈を深めることを目標とし、ジャムボードを使用して、互いの考えを表明させた。

ウ 校内体制

- ・ カリキュラム開発を全教員が参画して行うために、各教科会議を活性化させることが重要であると考え、各教科会議において各教科で取り組む内容について協議し、その内容を教科主任会で報告させ、それを踏まえてカリキュラム開発を進めた。
- ・ 生徒の学習状況の評価についても、各教科会議で議論し、教科主任会で評価状況を報告させ、観点別評価の「主体的に学習に取り組む態度」のA評価が想定以上に多いという実態を踏まえ、「目標・指導・評価の一体化」の全体研修を実施し、評価ルーブリックの見直しを図っていくことを全体で共有した。

(5) 学習評価

- ・ 10月下旬に、GPS-Academicを活用して生徒の資質・能力の育成状況を測った。12月中旬にマスタールーブリックを用いて生徒に自己評価をさせ、2月にGPS-Academicの評価結果を生徒に返却し、生徒に自己を客観的に捉えさせるとともに、教員はマスタールーブリックの評価の妥当性を検討し、指導の改善に生かす。

(6) カリキュラム評価

- ・ 学校経営計画の中間評価、および年度末評価の時期に、各分掌・各教科会議においてカリキュラムを評価し、カリキュラム改善に生かす。

3 令和4年度の成果及び課題

(1) 成果

- ・ 2年生では、グループ設定した課題の探究において校外活動を実施し、9グループが地元大学や行政機関に訪問あるいは来校していただき、21グループが企業等にメールで質問し専門家から示唆を得て視野を広げ探究を深めることができた。専門家に質問をするためには、自分たちの課題とつながりのある訪問先を選定し、研究内容や業務内容を理解し質問事項を練り直すことが有効であったと考える。リフレクションシートの「様々な観点からみるとジレンマに陥り問題を一から考え直した。」という記述からうかがえる。
- ・ 各教科の授業における自己評価フォームを教科主任会議で共有することができた。
- ・ GPS-Academicの結果のうち、批判的思考力の評価B以上である生徒の割合が2年生では60%（昨年50%）に向上し、マスタールーブリックによる情報活用能力もレベル2、レベル3、レベル4がそれぞれ36%、32%、27%となっており、情報を抽出し客観的に評価し自己を俯瞰する能力も向上している。「総合的な探究の時間」における情報検索や、定期考査で複数の資料を用いた考察問題を取り入れる等を実施していることが批判的思考力の向上につながったと考えられる。
- ・ 見直しをもって学習し、振り返りの自己評価での肯定的評価の生徒の割合は80.8%になっている。
- ・ 週一回「評論速読トレーニング」に取り組み、基礎的読解力について自己評価が肯定的評価の生徒の割合が81.1%になっている。

(2) 課題

- ・ 「総合的な探究の時間」において、テーマについて調べステレオタイプになりやすく、なぜこうなったのか、なぜこういうものが必要か等、なぜで切り取ってもっと深く調べていく必要がある。
- ・ GPS-Academicの結果のうち、批判的思考力の評価B以上である生徒の割合が1年生では50%に留まり、マスタールーブリックによる情報活用能力はレベル3・4がともに39%で、生徒の俯瞰能力が課題である。

4 令和5年度の研究目標及び取組内容

(1) 令和5年度の研究目標

ア アウトプット（活動指標）

- ・ 「総合的な探究の時間」と各教科・科目との関連を示すカリキュラム・マップにより，効果的な探究学習が実施されている。
- ・ 「総合的な探究の時間」の評価ルーブリックを作成し，教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し，生徒の学習状況を適切に評価することができている。

イ アウトカム（成果目標）

- ・ 見通しをもって学習し，振り返りの自己評価での肯定的評価の生徒の割合が 80 %以上になっている。
- ・ 外部のセミナー，コンテスト，コンクール等への参加（応募）した生徒数が 130 人以上になっている。

(2) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラム開発の概要

「総合的な探究の時間」を核として，生徒が各教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付け，実社会・実生活の中で総合的に活用できるようにするための探究力及び主体性・協働性を育成するカリキュラムの開発を行う。

具体的には，次の取組の ①・②によって主体性を育成し，③・④によって探究力を深める。

- ① 広島県内の大学の公開講座，広島大学グローバルサイエンスキャンパス等の各種セミナー・コンクール，海外の姉妹校等とのオンライン交流への参加を促し，専門的な研究を体験したり，異文化交流をしたりするという活動を通して，課題を見いださせる。
- ② 「総合的な探究の時間」において，1・2年生合同の校内探究発表会において2年生が探究の成果を発表し，1年生は探究の継承及び探究の質の向上を図る。
- ③ 本校理数コースの探究活動やポスターセッションの動画を活用し，どこまで探究するか探究の見通しをもたせるとともに，問いの背景を深く掘り下げることで質問の質を高めさせ，探究の質を高める。
- ④ 基礎的読解力を身に付けさせるためのツールを検討し，読解力の向上を図る。

イ 校内体制

- ・ カリキュラム開発を全教員が参画して行うために，各教科会議を活性化させる。
- ・ 授業における自己評価フォームを教科主任会議で共有する。
- ・ パフォーマンス課題及びその評価ルーブリックを教科主任会議で報告し，共有化を図る。